

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成20年1月31日(2008.1.31)

【公開番号】特開2006-185241(P2006-185241A)

【公開日】平成18年7月13日(2006.7.13)

【年通号数】公開・登録公報2006-027

【出願番号】特願2004-378829(P2004-378829)

【国際特許分類】

G 0 8 B 25/00 (2006.01)

G 0 8 B 25/04 (2006.01)

G 0 8 B 25/08 (2006.01)

H 0 4 M 11/04 (2006.01)

【F I】

G 0 8 B 25/00 5 1 0 E

G 0 8 B 25/00 5 1 0 M

G 0 8 B 25/04 E

G 0 8 B 25/08 A

H 0 4 M 11/04

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月4日(2007.12.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

センサアドレスの欄には、識別コードが記載される。図 3 の例では、センサアドレスとして、識別コード S 1 ～ S 1 1 を例示している。設置場所の欄には、センサが設置されている場所が記録される。識別コードと監視対象領域の配置図の情報とを関連付けておくことにより、各センサ S 1 ～ S 1 1 の位置を配置図と一緒に表示することが可能である。このように、配置図とセンサとを関連づけるための情報（リンク情報）を設置場所の欄に記憶しても良い。また、図 3 に示すように、設置場所を言語で記憶しておくことにより、言語情報により検知中のセンサの位置を表示部 1 2 に表示することができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 0】

<システム動作説明>

図 4 は、警備モードに設定する際の警備装置 1 0 およびセンタ装置 3 1 の動作を示す動作説明図である。操作部 1 3 の操作により警備モードの設定が行われると（B 1）、警備モード設定信号がモード設定部 2 2 に入力される（B 2）。モード設定部 2 2 は、センサの状態を確認し（B 3）、検知中のセンサがなければ（B 4；N o）、全センサの監視フラグを O N にして警備モードの設定を行い（B 5）、警備モードの設定に伴う設定情報を監視センタ 3 0 のセンタ装置 3 1 に送信する（B 6）。監視センタ 3 0 では、設定情報を受信することにより（B 1 1）、センタ装置 3 1 や管制員が監視対象の監視を開始する。